個別施設計画【横断歩道橋】

番号	施設名	路線名	架設年度	橋長(m)	径間数	幅員(m)	橋種	管理者	点検計画												点検実施年度（西暦）	点検結果健全度区分	修繕計画												対策内容	対策費用（百万円）
									2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2032 (R15)	2032 (R16)			2023 (R5)	2024 (R6)	2025 (R7)	2026 (R8)	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)	2031 (R13)	2032 (R14)	2032 (R15)	2032 (R16)		
1	市道長2098号線横断歩道橋	市道長2098号線	1985	15.1	1	2.1	鋼橋	伊豆の国市					○					○			2022	II													

●老朽化対策における基本方針

健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針とともに、予防的な修繕計画等の実施を徹底することにより、修繕・架け替えに係わる事業費の高コスト化を回避し、予算の平準化と維持修繕費の縮減を図ります。
傷んだ横断歩道橋は、健全度結果より管理限界健全度Ⅲ以下について修繕計画をもとに優先して修繕を実施し、橋を長生きさせていきます。

●新技術等の活用方針

社会インフラの老朽化対策を効率的に進めていくため、近年、維持管理に係る革新的な技術開発が積極的に行われています。橋梁の維持管理においても、定期点検の効率化や高度化を図る点検支援技術や補修工事の省力化やコスト縮減を図るための補修工法など、新技術・新工法が開発されています。市では持続可能な維持管理を実現するために、定期点検や補修工事の際に新技術等の活用について検討を行い、有効な技術を積極的に取り入れて、効率的・効果的な維持管理ならびにコスト縮減を図ります。具体的には、定期点検においては、「点検支援技術性能カタログ（案）（国土交通省）」などを参考に点検作業の効率化につながる新技術等の活用を検討します。
補修工事においては、「新技術情報提供システム（NETIS）（国土交通省）」や「新技術・新工法情報データベース（静岡県）」等を参考に各橋梁に適した有効な新技術等の活用を検討します。

●費用の縮減に関する具体的な方針

これまでに進めてきた計画的かつ予防的な維持管理を更に推進することで、橋梁の健全度を良好な状態に維持し長寿命化すると共に、修繕・架替えに係る費用を抑え、ライフサイクルコスト（ＬＣＣ）の縮減ならびに予算の平準化を図ります。
【方針①】予防保全型の維持管理とし、健全度を確保します。
【方針②】橋梁も含め予算の平準化を図るため、対策優先順位を基に対策時期の集中を緩和します。